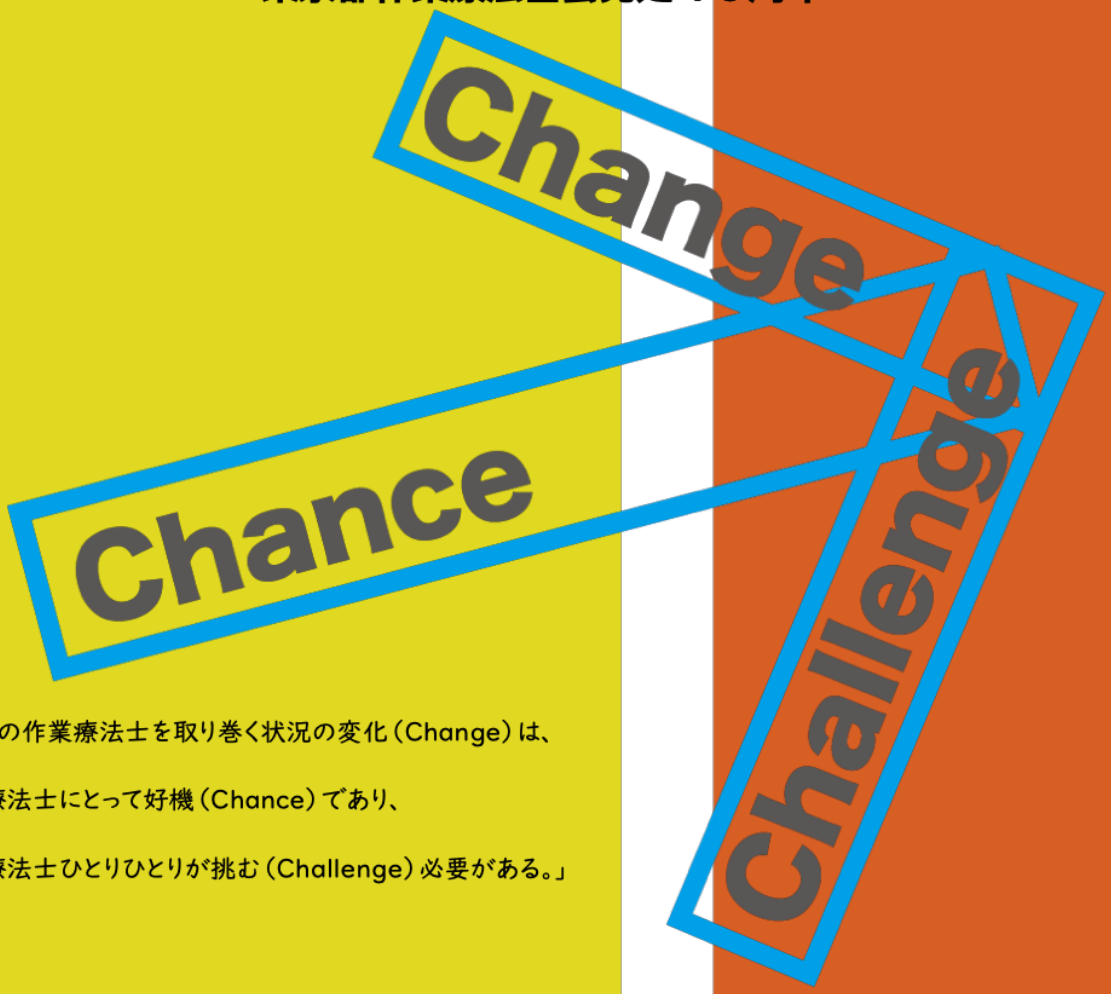
第１８回東京都作業療法学会

Change･Chance･Challenge　３つのＣ　～作業療法のいま･これから～

東京都作業療法士会発足４０周年



「昨今の作業療法士を取り巻く状況の変化（Change）は、

作業療法士にとって好機（Chance）であり、

作業療法士ひとりひとりが挑む（Challenge）必要がある。」

開催日時：２０２２年7月１０日（日）

９：２０～１７：２０（受付開始９：００～）

開催方法：WEB（ZOOM）

大会長：三沢幸史（東京都作業療法士会副会長）

実行委員長：粟沢広之（東京都作業療法士会理事　大久野病院）

主催：一般社団法人　東京都作業療法士会

開催ブロック：西多摩･南多摩ブロック

第１８ 回東京都作業療法学会

会　　期　2022年7月10日（日）9：20～17：20（受付開始9：00～）

開 催 方 式フルオンライン開催

テ ー マ　「change・ chance・ challenge ３つのC ～作業療法のいま・ これから～」

大 会 長　三沢　幸史　（東京都作業療法士会　副会長）

実行委員長　粟沢　広之（東京都作業療法士会理事　大久野病院）

主　　催　一般社団法人　東京都作業療法士会

開催ブロック　　西多摩・ 南多摩ブロック

後　　援　　一般社団法人　日本作業療法士協会

参 加 費　　○東京都作業療法士会会員：2,000円
○東京都作業療法士非会会員・ 他県士会：3,000円
○東京都作業療法士会会員・ 非会員かつ2020年以降に免許を取得した作業療法士：無料
○作業療法士養成校　学生(大学院生を除く)：無料

※基本、受付は6/26までとなります、当日受付はありません。

広 報 動 画　URL：https://youtu.be/JIK96MV2nCs

広報動画

第18回東京都作業療法学会　日程表

時間	チャンネルA	チャンネルB	チャンネルC	チャンネルD	チャンネルE	PDFで閲覧
9:00	受付開始					
9:20	開会式 9:20〜9:40					
9:40	学会長講演 9:40〜10:40					
10:40	休憩　10:40〜10:50					
10:50	口述1 高次脳 10:50〜11:30	口述5 精神 10:50〜11:30	公募1 10:50〜11:50	事業部 10:50〜11:50	教育部・子ども委員会 10:50〜11:50	ポスター発表 オンライン掲示 ポスター9 脳血管 ポスター10 高次脳 ポスター11 作業 ポスター12 調査研究 ポスター13 活動報告
11:30	休憩　11:30〜11:40					
11:40	口述2 脳血管A 11:40〜12:20	口述6 活動と参加 11:40〜12:20				
11:50			休憩　11:50〜12:00			
12:00			公募2 12:00〜12:20			
12:20	昼休憩　12:20〜13:10					
13:10	口述3 脳血管B 13:10〜14:10	口述7 作業 13:10〜14:10	公募3 13:10〜14:10	地域包括ケア対策委員会 13:10〜14:10	認知症の人と家族の生活支援委員会 13:10〜14:10	
14:10	休憩　14:10〜14:20					
14:20	口述4 身体 14:20〜15:20	口述8 調査研究 14:20〜15:20	公募4 14:20〜15:20	自動車運転と移動支援対策委員会 14:20〜15:20	就労支援委員会 14:20〜15:20	
15:20	休憩　15:20〜15:30					
15:30	都士会40周年記念企画 15:30〜17:00					
17:00	閉会式 17:00〜17:20					
17:20	終了　17:20					

学会開催にあたり

第 18 回東京都作業療法学会 学会長
東京都作業療法士会 副会長
三沢 幸史

第18 回東京都作業療法学会は、コロナ禍の影響を考慮し昨年に引き続きフルオンラインでの開催となりました。開催に向けて都士会理事の粟沢実行委員長をはじめ西多摩南多摩ブロックの学会実行委員の皆様のご努力、ご苦労の賜物として開催できましたこと、心より感謝申し上げます。また、今学会は、東京都作業療法士会設立40周年を記念した学会と位置付けられ、このような重要な節目の学会で学会長を務めさせていただきましたことを誇りに思っております。

今学会のテーマは、「Change Chance Challenge 3つのC　～作業療法のいま・これから～」で学会実行委員の思いが詰まったものであります。東京都の作業療法士が、この40年で培ったこれまでの取り組みや英知を「今こそ」皆様と共有し、新たな変革（Change）に向ける機会（Chance）としさらなる挑戦（Challenge）を私個人としても東京都作業療法士会としても「これから」の未来に向けて参加者の皆様と共有したいと存じます。

設立40周年記念企画としては、東京都にも縁の深い第3代および第4代日本作業療法士協会長であられた寺山久美子、杉原素子両先生をお迎えし先生方に次の40年に向けたご講演を賜り、田中勇次郎東京都作業療法士会長と若い作業療法士の未来に向けたメッセージをいただく鼎談をお願いしております。

今学会実行委員会の独自企画としまして、学会テーマに即した地域で展開している独自の取り組みを公募という形で広く募り、5 つのテーマ「発達」、「シーティング」、「住宅改修」、「脳卒中当事者と家族支援」、「認知症ケア」の企画をお願いすることになっております。同様に都士会各部、委員会からも企画をお願いしております。これらの企画は、皆様の明日からの作業療法のヒントになり、必ず役立つことになると存じます。

また、学会の最も重要な会員皆様の発表は、口述、ポスター合わせて62演題を数え、今回は対面やライブでの質疑はないものの事前配信と質問ができるような工夫がなされております。

最後に、コロナ禍3年目となり、この間に新たに作業療法士となられた若い方々に参加の機会を少しでも提供できないかという要望に、「2020 年以降作業療法士免許取得者」（3年目までの）作業療法士は、今年度限りで学会参加費無料という英断をしてくださった都士会理事会の皆様にたいへん感謝申し上げます。それでは今学会が、参加者皆様の「Change Chance Challenge 3つのC」に向けた知識・技術の学術習得の場になることを祈念いたします。

都士会40周年記念企画

第18回東京都作業療法学会
一般社団法人　東京都作業療法士会40周年記念企画
講演・鼎談「新たな40年に向けた未来への提言　若き作業療法士へのエール」

大阪河﨑リハビリテーション大学教授・副学長　寺山 久美子 先生
国際医療福祉大学大学院教授　　杉原 素子 先生
【座長・鼎談司会】　東京都作業療法士会会長　田中 勇次郎 先生

【企画趣旨】

一般社団法人東京都作業療法士会（以下、都士会）は1982年11月に日本作業療法士協会（以下、協会）関東東北支部から都士会を発足し協会に届け出を行い出発しました。以後、2007年には有限責任中間法人として法人化を果たし、翌年から一般社団法人として現在に至り、今年度に設立40周年を迎えます。設立40周年を記念して都士会ニュースでは歴代の都士会長や役員の皆様に都士会の歩みを振り返っていただき、今年度の学術誌「東京作業療法」でも記念企画を検討しております。

今学会では設立40周年企画として、寺山久美子先生、杉原素子先生をお招きして、作業療法の発展を振り返り、作業療法士の未来への提言をいただくご講演を賜り、田中勇次郎都士会長と「新たな40年に向けて若き作業療法士へのエールをいただく鼎談をしていただきます。両先生は、言わずと知れた日本作業療法士協会の第3代そして第4代協会長を務められ、日本の作業療法の発展に尽力された功績により保健衛生功労にあたる「旭日小綬章」を令和3年春及び秋の叙勲にて受章されました。

また、お二人は東京都にも縁が深く、東京都心身障害者福祉センターで肢体不自由科長に相次いで就任され東京都における作業療法士の存在を強く位置付けてくださりました。一方、東京都の作業療法士育成にもご尽力くださり、寺山先生は東京都立医療技術短期大学（後の東京都立保健科学大学、東京都立大学）、そして帝京平成大学において、杉原先生は府中リハビリテーション専門学校、国際医療福祉大学大学院において、多くの後輩を育ててくださっております。

寺山先生、杉原先生に、作業療法の発展を振り返り、これからの作業療法士の未来への提言をしていただきたく今学会で企画いたしました。そして、田中都士会長との鼎談で若い作業療法士へのエールを語っていただきたいと存じます。

私自身も心躍るようなこの40周年記念の企画を、寺山久美子先生、杉原素子先生がお引き受けくださり心より感謝しております。若手だけでなくすべての作業療法士皆さんの未来への糧となることと存じます。
（学会長　三沢幸史）

【寺山久美子先生　ご略歴】

1962 年　東京大学医学部衛生看護学科卒業、看護婦･ 保健婦免許登録

1962 ～ 1967 年　社会福祉法人日本肢体不自由児協会整肢療護園厚生棟勤務

1967 ～ 1968 年　東京大学附属病院リハビリテーション部勤務

1968 年　作業療法士免許登録、日本作業療法士協会に入会

1968 ～ 1985 年　東京都心身障害者福祉センター勤務、肢体不自由科長

1971 ～ 1979 年　日本作業療法士協会　常務理事

1972 年　医学博士（東京大学）

1979 ～ 1991 年　社団法人日本作業療法士協会　副会長

1986 ～ 2002 年　東京都立医療技術短期大学（後の東京都立保健科学大学、東京都立大学）教授、作業療法学科長

1991 ～ 2001 年　社団法人日本作業療法士協会　会長

2002 年～現在　　東京都立大学　名誉教授

2002 ～ 2009 年　帝京平成大学　教授、健康メディカル部長、作業療法学科長

2009 年～現在　　大阪河﨑リハビリテーション大学　教授、副学長

2009 年～現在　　社団法人日本作業療法士協会　名誉会員

【杉原素子先生　ご略歴】

1968 年　お茶の水女子大学大学院人文科学研究科教育学専攻修了
　　文学修士

1968 ～ 1970 年　神経科クリニック勤務

1970 ～ 1971 年　東京都心身障害者福祉センター勤務

1971 ～ 1973 年　米国南カリフォルニア大学に留学

1973 年　米国南カリフォルニア大学作業療法学科資格コース修了、米国作業療法士資格取得、作業療法士免許登録

1973 ～ 1985 年　府中リハビリテーション学院（府中リハビリテーション専門学校）勤務、作業療法学科長

1974 年　日本作業療法士協会に入会

1979 年　第 13 回日本作業療法士協会学会　学会長

1979 ～ 1986 年　日本作業療法士協会　常務理事、理事（1981 ～ 1983 年 ）、 副 会 長（1983 ～ 1986 年 および1997～2001 年）を歴任

1985 ～ 1995 年　東京都心身障害者福祉センター　肢体不自由科長

1985 ～ 1998 年　日本作業療法士協会　事務局長

1995 ～ 2008 年　国際医療福祉大学　教授（この間、作業療法学科長、保健学部長を歴任）

2000 ～ 2008 年　国際医療福祉リハビリテーションセンター勤務（この間、副センター長、センター長を歴任）

2001 ～ 2009 年　日本作業療法士協会　会長

2008 ～ 2021 年　社会福祉法人新宿けやき園　施設長

2008 年～現在　国際医療福祉大学大学院　教授（この間、副学長、副大学院長を歴任）

2009 年～現在　日本作業療法士協会　顧問、日本作業療法士連盟　会長

2010 ～ 2018 年　国際医療福祉大学　小田原保健医療学部長、医療福祉学部長、成田保健医療学部長を歴任

2013 年～現在　日本作業療法士協会　名誉会員

【座長・鼎談司会】田中勇次郎　一般社団法人東京都作業療法士会会長

1974年東京都立府中リハビリテーション学院作業療法学科卒業。

（財）湯河原厚生年金病院、社会福祉法人のうけん療育会に勤務後、1980年東京都衛生局入職。神経病院、府中病院、多摩療育園などに勤務。2012年東京都を定年退職。

その後、東京YMCA医療福祉専門学校作業療法学科教員勤務の傍ら、（公財）東京都医学総合研究所や帝京科学大学などの非常勤勤務と、国立病院機構国立精神神経医療センター外部研究員として脳波を利用した意思伝達装置の開発研究に従事した。

2010年から一般社団法人東京都作業療法士会会長就任。東京都リハビリテーション協議会委員、東京都多職種連携連絡会委員、厚生労働省受託事業「介護ロボットのニーズ・シーズ連携協調協議会」プロジェクトコーディネーター、厚生労働省受託事業「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業ニーズ・シーズ マッチング支援事業」マッチングサポーター、厚生労働省受託事業「ICT技術を活用した障害者の自立・就労を支援する『アシスティーブテクノロジーアドバイザー』の育成」の委員、東京都難病患者療養支援事業などの社会貢献活動等にも従事。

チャンネルA

【口述セッション１】高次脳

10:50〜11:30

O1-1　半側空間無視を呈した患者に対するCGゲームを用いたアプローチについて

佐々総合病院　前田 千春

O1-2　重度失語症者の家族指導が家族のコミュニケーションに対する自己効力感の向上に繋がった一例

苑田会 花はたリハビリテーション病院　中山 瑠莉愛

O1-3　予定管理が困難な記憶障害患者に対し、チェックシートの導入により行動変容を促進させた事例

苑田会 花はたリハビリテーション病院　市川 莉帆

O1-4　机上検査とADLの無視症状に乖離を呈した左半側空間無視患者の眼球運動の特徴

清伸会 ふじの温泉病院　菅原 光晴

【口述セッション２】脳血管A

11:40〜12:20

O2-1　複合的な介入にて重度感覚障害を伴う麻痺手の使用頻度が変化した一症例

江戸川メディケア病院　飯塚 哲史

O2-2　脳梗塞により右片麻痺,運動性失語を呈し,コミュニケーション手段に難渋した一例

医療法人社団 苑田会 苑田第一病院 リハビリテーション部　諸沢 拓実

O2-3　急性期橋出血の症例に対し座位より姿勢制御を図り介助量が変化した症例

医療法人社団 苑田会 苑田第一病院 リハビリテーション部　下村 佳菜枝

O2-4　多様な前頭葉症状を呈した症例のADLの定着を目指した介入

河北総合病院 リハビリテーション科　宮下 沙希

【口述セッション３ 】脳血管B

13:10〜14:10

O3-1　慢性期脳卒中患者の重度上肢麻痺がA 型ボツリヌス毒素製剤投与と
修正CI療法の併用により改善を見た一症例

東京都保健医療公社 荏原病院　大村 隼人

O3-2　麻痺側上肢の使用頻度に対し上肢リハビリ装置CoCoroe AR²を使用して，機能改善を認めた一症例

日産厚生会 玉川病院　鈴木 史也

O3-3　回復期脳卒中片麻痺患者において運動機能に応じた電気刺激療法と
修正CI療法を行い麻痺手の使用行動の変容に効果的であった事例

医療法人社団 苑田会 苑田会リハビリテーション病院 リハビリテーション科　高田 治実

O3-4　心原性脳塞栓症の感覚性運動失調に対するミラーセラピーの効果

医療法人社団 苑田会 苑田会リハビリテーション病院 リハビリテーション科　高橋 なるみ

O3-5　HANDS療法時、自主練習を実施する有用性-PC操作獲得に向けて-

初台リハビリテーション病院 回復支援局　豊島 彩

【口述セッション４】身体

14:20〜15:20

O4-1　3Dプリンタで作製したベッドリモコンのボタン押下自助具の有用性について

国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局 第二自立訓練部　　水谷 とよ江

O4-2　重症COVID-19の入院経過中に肘部管症候群をきたした患者への作業療法

公益財団法人 東京都保健医療公社 豊島病院 リハビリテーション科　　渡邊 聡大

O4-3　クロイツフェルト・ヤコブ病を罹患した患者に対し,急速な進行に合わせ
日常生活動作評価を行い自宅外出に至った症例

医療法人社団 永生会 南多摩病院 リハビリテーション科　　多賀井 祐聡

O4-4　急性期病院で介入し，自己身体認識の向上と運動習慣の定着を目指したパーキンソン病の一例

東京医科大学八王子医療センター リハビリテーション部　　岡部 由美子

O4-5　回復期リハビリテーション病棟における施設入所が決定した
脊髄損傷患者に対する家族との交流に焦点を当てた介入

イムスリハビリテーションセンター 東京葛飾病院 リハビリテーション科　宇野沢 舞

チャンネルB

【口述セッション５】精神

10:50〜11:30

O5-1　統合失調症を有しTh6レベルの胸髄損傷を呈した一例～更衣動作自立を目指して～

医療法人社団 光生会 平川病院　　岩瀬 優美

O5-2　精神状態の悪化を認めながらもリハビリテーションを継続し身体機能向上に繋がった症例

平川病院 リハビリテーション科　　光岡 直哉

O5-3　「この患者さん退院できそうです」
～老健のプログラムとスタッフを活用した精神科作業療法の試み～

稲城台病院 リハビリテーション部　榎本 真未

O5-4　精神科病院から介護老人保健施設, そして地域へつなぐための作業療法士の連携

特定医療法人社団 研精会 介護老人保健施設 デンマークイン若葉台 リハビリテーション部　吉田 瞳

【口述セッション６】活動と参加

11:40〜12:20

O6-1　感染隔離対応が招いた意志の低下を個人特性に寄り添った環境から支えた事例

医療法人社団 玉栄会 東京天使病院　　岡村 愛

O6-2　Activityを通し社会交流が図れた事例～コロナ禍における内科病棟での関わり～

医療法人社団 永生会 永生病院 リハビリテーション部　　藤本 結香

O6-3　回復期から生活期へのシームレスな連携　～「うどんを食べに行きたいんや！」の実現に向けて～

特定医療法人社団 研精会 稲城台病院 リハビリテーション部　渡邊 涼介

O6-4　COPMによる作業の抽出と目標設定をきっかけに自宅退院を果たした症例

五反田リハビリテーション病院 リハビリテーション科　船橋 隼

【口述セッション７】作業

13:10～14:10

O7-1　人生を楽しみ，悔いなく生きる，脳出血発症後８年目からのチャレンジャー
～ひきこもりから支援者へ～

株式会社 LILYS　平川 雄介

O7-2　「作業に対する語り」の聴取と客観視により,段階的な目標設定が可能となった症例

医療法人社団 KNI 北原リハビリテーション病院 リハビリテーション科　小林 舞美

O7-3　対側THA実施後の生活行為再獲得の意欲が向上した症例～MTDLPを用いて～

高齢者在宅サービスセンター 西新井 通所介護　金子 柊太

O7-4　入院歴を活かした関わりとメモリーノートの利用により自律した生活を再獲得した事

医療法人社団 永生会 永生病院 リハビリテーション部　細貝 茉莉江

O7-5　本人の重要な作業である家事を目標にしたことにより主体性を獲得した一事例

竹の塚脳神経リハビリテーション病院 リハビリテーション部　深見 舞

チャンネルC

【口述セッション8】調査研究

14:20〜15:20

O8-1　Occupational Balance Questionnaire 11(OBQ11)日本語版作成と言語的妥当性の検討

東京都立大学大学院 人間健康科学研究科 博士後期課程　　山田 優樹

O8-2　東京都内の運転支援に関する実態調査について：アンケート調査を用いて

東京都作業療法士会 自動車運転と移動支援対策委員会
東京都リハビリテーション病院 作業療法科　　天内 將広

O8-3　認知症治療病棟のOTの関わり ～ライフヒストリーカルテから見つける「その人らしさ」～

特定医療法人 研精会 稲城台病院 リハビリテーション部　　大谷 美里

O8-4　地域のリハビリテーション専門職が「骨転移研修会」に期待すること

東京都保健医療公社 多摩北部医療センター リハビリテーション科　石田 尚久

O8-5　COVID-19隔離病室におけるカレンダーを用いた見当識訓練の試み

東京都保健医療公社 大久保病院 リハビリテーション科　岩佐 美保子

O8-6　安全で妥当性のある入浴評価に向けた取り組み

医療法人財団 利定会 大久野病院 リハビリテーション部　川島 久哉

『シーティングに作業療法士が関わる意義 / コロナ禍で日本シーティング・コンサルタント協会が行っているchange & challenge　～シーティングって何だろう？という作業療法士から車椅子・座位に拘る作業療法士まで～』

医療法人社団永生会　永生病院 / 日本シーティング・コンサルタント協会　教育局局員　野口僚子

医療法人社団永生会 法人本部リハビリ統括管理部 / 日本シーティング・コンサルタント協会

副理事長　岩谷清一

■シーティングとは：椅子・車椅子で生活する人を対象に、座位に関する評価と対応（機器の選定・調整・マネジメントなどを含む）を行うことです。対象者と共有した目標を達成できる適切な座位姿勢を実現することにより、二次的障害の予防、活動と参加の促進、心身機能・構造の改善を促す目的で行われます。（当協会HP）
■シーティングに作業療法士が関わる意義：作業療法士は人のあらゆる活動である作業遂行にアプローチします。その過程で「人と環境（椅子・車椅子）の不適合」「環境（椅子・車椅子）と環境（作業環境）の不適合」「作業と環境（椅子・車椅子）の不適合」を良く経験しませんか？シーティングの知識・技術で、これらの不適合が軽減しやすくなります！

■コロナ禍での日本シーティング・コンサルタント協会のchange & challenge

①日本シーティング・シンポジウム、シーティング・コンサルタント養成研修のウェブ開催

昨年よりウェブ開催を導入しました。視聴期間の長さ・遠方からの参加しやすさから好評です！
2022年の日本シーティング・シンポジウムも11月19・20日にウェブ開催が決定しています。

現在演題募集中ですが、毎年臨床的な演題から学術的な演題までシーティングに関する様々なトピックの発表があります。特別講演・教育講演などもあります。

詳しくはこちら→https://seating-consultants.org/17thjssc/

②シーティングちゃんねる（you tube）の開設

非会員の方にもシーティングについて知っていただく機会になっています。今後もコンテンツを増やしていく予定です。ぜひご覧ください！

シーティングちゃんねるURL→

『認知症支援者に視点をおいた認知症ケアの質の向上』

東京都リハビリテーション病院　坂尾梨菜

認知症多職種カフェ「けあとも」は、医療従事者だけでなく地域の支援者、家族も参加する憩いの場である。認知症患者を支援するわたしたちに視点をおいて、月１回一緒に学び、語り、認知症患者を想う時間を共有している。明日からのケアの糸口を見つけ、同じ思いを持つ人との出会いにより、モチベーションが高まり、離職防止や組織改革に繋げ、結果として認知症ケアの質の向上を目的としている。

認知症多職種カフェ“けあとも”開催

【目的】認知症者が住み慣れた地域で、生き生き暮らせる社会の構築

ケアする人も、実はケアされる側の人

『日々の業務に流されて、認知症の人達の尊厳を見失いそうになるけれど、
“けあとも”に来ると認知症ケアの原点に戻れる』

	2019年				2020年												2021年					計
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
認知症の医療／ケア		★		★					★	★		★	★		★	★		★	★★	★	★	13回
多職種連携	★		★			★											★					4回
組織改革					★									★								2回
家族ケア											★											1回

公募3　13:10～14:10

『町田市住宅改修アドバイザー制度について』

医療法人社団幸隆会　多摩丘陵病院　リハビリテーション技術部　赤羽直子

NPO町田すまいの会　高本明生

高齢化社会において、「住み慣れた自宅にできるだけ長く自立して住み続けたい」との希望に応えるため、専門職による住環境整備の適切なアドバイスは、重要である。都内でも珍しい町田市住宅改修アドバイザー制度の内容と、建築士との協業、行政と連携して制度を創った「町田すまいの会」のこれまでの経緯や活動について発表し、住環境整備における専門職の役割や、行政との連携、異業種との協業を考える。

『脳卒中経験者及びその家族，医療関係者で創る公的制度外の取り組み』

一般社団法人脳フェス実行委員会，ねりま健育会病院　岡徳之

一般社団法人脳フェス実行委員会，旭脳神経内科リハビリテーション病院　小林純也

一般社団法人脳フェス実行委員会　松川力也

病院を退院された脳卒中当事者は，患者ではなく，地域で暮らす生活者として再スタートを切る．地域での生活に適応していく中で，院内で経験しない生活行為を行いながら，自身の生活の管理が必要となるが，生活上の困りごとや悩み，孤独などを感じられている方が少なからず存在する．このような現状に対して，生活行為の工夫に関する情報発信や，同病者の様子を知る講演会，グループ活動を通じて解消しようとする取り組みを，療法士を含む医療関係者，脳卒中経験者及びその家族らから成るコミュニティーの活動を通じて行なっている．本発表では，その活動内容の紹介とその活動で得られた変化，今後の展望について共有したい．

事業部 **10:50〜11:50**

『作業療法の啓発活動』

大舘　哲詩（花はたリハビリテーション病院）

遠藤　環（東京健生病院）、谷口明理（友愛十字会　港区立障害保健福祉センター）

小俣智恵美（小金井リハビリテーション病院）、伊藤啓史（訪問ステーション　てとてと小平）

事業部のミッションの一つは「作業療法を広める」ことである。主に都民を対象に作業療法（士）について、少しでも知っていただく機会をと思い事業を実施している。

広く都民向けという点では新宿駅西口広場で行う看護フェスタへの出展は一大事業である。作業療法ブースでは例年、自助具の紹介や興味関心チェックシートをアレンジし街頭アンケート風に都民の方々の作業を聴きとったりしていた。ここ数年は感染対策のため、オンライン開催など形を変えながら継続している。

近年では何かを広める場合にSNSの活用は必須ともいえる。従来のFacebookに加え、昨年度から都士会のInstagramのアカウントも開設した。９月２５日「作業療法の日」にあわせてステッカーを独自に作成し都士会員へ配布した。シールを使用した投稿が様々な病院や個人からSNSにあげられ、他県士会からも反響があった。

啓発の目的の一つには次世代の作業療法士のなり手を増やすこともあげられる。事業部は都内の養成校とオープンキャンパスの際にコラボレーションし、高校生らを対象に作業療法の魅力を伝えている。実施例としては従来のOT紹介動画に加え、コロナ禍でなかなか見学できない、病院・訪問・発達分野の職場紹介動画を新たに作成した。参加者に視聴してもらいつつ、私共もZOOMで参加し、進路で悩んでいる高校生へ作業療法について伝えたり、質問に答えたりした。また他校とは動画内容をパンフレット化し、参加した高校生らへ配布をした。他にもAO入試合格者を対象として、OT紹介動画の視聴や各領域のOTとオンラインで交流ができる機会も作った。

魅力ある作業療法（士）をより多くの方に知ってもらえるよう、今後も事業を企画実施していきたいと思う。

『他職種から見た作業療法の強みとは？

～先駆的地域における作業療法の取り組みに学ぶ～』

齋藤正洋（東京都リハビリテーション病院）

中谷美季（東京都リハビリテーション病院），猪股英輔（東京保健医療専門職大学）

金澤均（医師会立中央区訪問看護ステーション），春口麻衣（目黒区介護保険課介護予防係）

近年の地域リハビリテーションにおいては，高齢者に限らず，作業療法士による様々な取り組みを耳にする機会が増えて参りました．

東京都内でも地域での作業療法士を取り巻く環境は大きく変化（Change）してきております．2020年に地域包括ケア対策委員会で実施した地域支援事業参画状況調査の結果からも，地域支援事業に作業療法士が参画している自治体も増えてきており，地域ケア個別会議や地域リハビリテーション活動支援事業，総合事業での短期集中型事業など，作業療法士として参画されている方も多いと思われます．

しかしながら，私たち作業療法士は本当に自分たちの強みを理解し，作業療法を活かせているのでしょうか？リハ職というくくりの中で，表面的に運動療法に偏った支援を強いられていませんか？

今回，地域支援の先進地域である墨田区で，地域リハビリテーション活動支援事業などを通じて地域支援に従事している東京都リハビリテーション病院の取り組みを通して，作業療法士が地域でどのような活動が求められるのかを考えていきたいと思います．また，一緒に従事されている他職種の方にもご登壇いただき，他職種から見た作業療法の強みを語っていただく企画を考えました．実際の作業療法士の取り組みや他職種からの語りを通して，今一度，作業療法の強みを考えたいと思います．

地域では，少しずつではありますが，作業療法士に寄せられる期待も日々増してきていると感じます．実際に国や自治体からは熱い視線が作業療法に向けられ始めています．今こそ地域で作業療法が活躍できるChanceであり，各地域の作業療法士がChallengeする時なのです．本企画を通して，都内の作業療法士が互いに自信と誇りをもって，胸を張って地域で作業療法を展開できる．そんな第一歩をこれから踏み出すきっかけになれば幸いです．

皆様，奮ってのご参加をぜひお願いいたします．

自動車運転と移動支援対策委員会　14:20〜15:20

『電動車いすでの街歩きを通して，地域の移動支援を地域から発信する

～「ウィーログフレンズ 全国一斉車いす街歩き 2022初夏」への参加～』

東京都リハビリテーション病院　大場秀樹

リハラボ訪問看護リハビリステーション町田　永島匡

電動車いすユーザー　鳥越勝

当委員会の企画で，2022年6月11日に一般社団法人Weelogが開催する「ウィーログフレンズ 全国一斉車いす街歩き 2022初夏」へ参加します．このイベントは，墨田区にある地域包括支援センター「八広はなみずき高齢者支援総合センター」の協力のもと，地域の電動車いすユーザーや電動車いすを体験したい方，車いす代理店との協力で開催します．

イベント参加のきっかけは，Aさんの地域ケア会議でした．Aさん本人も参加したこの会議で，今後の生活への思いを語ってくれました．それは「自分の生活は充実している．これからは地域とのつながりやネットワークを築いていきたい．私のように電動車いすを使って，美術館巡りや旅行などやりたいことができている人を増やしていきたい」．そして，「電動車いすが地域でもっと利用できるようにしたい」という言葉でした．さらに以前から，移動手段の確保が地域課題となっていたため，今回のイベント参加を企画しました．

目的は，地域住民が障害者の方々との交流を通して，地域の移動手段として電動車いすの体験機会を作ることです．そして，地域のバリアフリー調査と体験を通した気づきの共有を図り，地域全体のバリアフリー化を促進することです．

街歩きは，①電動車いすの体験，②バリアフリー調査，③参加者同士での気づきの共有の３つから構成されます．バリアフリー調査はWeelogが開発した「Weelog!アプリ」を活用します．このアプリは，走行したルートやユーザー自身が実際に利用したスポットなどのバリアフリー情報が共有できます．複数人で構成されたチームに分かれて，電動車いすで街歩きをしながら，トイレや店舗，バリアとなる情報等を集めていきます．最後に参加者間のディスカッションを通して気づきの共有を図ります．最終的に共有された結果を墨田区に報告する予定です．

イベント主催の一般社団法人Weelogは，障害者や高齢者、ベビーカー利用者などの移動に困難を抱える方向けにバリアフリー情報を発信し、社会全体のバリアフリーに関する理解を普及させることを目的に2018年に設立されました．代表理事の織田友理子さんは，2002年に進行性の筋疾患「遠位型ミオパチー」の診断を受け，2008年に「PADM遠位型ミオパチー患者会」を立ち上げ，著書「ひとりじゃないから，大丈夫！」の他，多数の講演やメディア出演があるので，ご存じの方は少なくない思います．

ちなみに，前述のAさんは，こころよくイベント参加を希望してくれ，電動車いすを体験したい知人を紹介してくれました．また，地域にお住まいの難病の方も参加します．

東京都作業療法学会では，このイベントの様子や得られた結果をご報告いたします．多くの皆様のご参加をお待ちしています．

一般社団法人Weelog！ホームページ　https://wheelog.com/hp/

教育部・子ども委員会　10:50〜11:50

『地域で働く発達OT「いま」と「これから」』

企画者：飛田孝行　　司会：伊藤祐子（子ども委員会理事）

話題提供①：北川伸尚（教育部・島田療育センター）

話題提供②：伊藤 綾（教育部・発達支援ルーム にこっと 永福教室）

話題提供③：飛田孝行（教育部・東京小児療育病院）

指定討論：松永優佳子（子ども委員会委員）　山﨑仁智（子ども委員会委員長）

【企画趣旨：飛田孝行】

近年、障害観は医学モデルから社会モデルへの移行が進み、地域でのOT支援が期待されている。発達領域では「子育て」「教育」という生活文脈への支援ニーズが高まっているが、関わるOTの少なさやその特異性から、発達OTの情報共有の場が少ない。特に少人数職場では、発達ＯＴ同士の「つながり」が支援力向上に大きく影響を与える。企画者らは東京都作業療法士会の活動を通じて得られた「つながり」が、それぞれの支援力向上に寄与してきたと感じている。今回、東京都作業療法士会が発達OTの「つながり」の場となる事を期待し、「教育部発達チーム」と「子ども委員会」の共同で企画した。教育部発達チームのメンバーから「地域」をテーマとした話題提供し、子ども委員会委員による指定討論を通して、発達に関わるOTの「いま」と「これから」を議論する機会としたい。

【話題提供①：北川伸尚】島田療育センターの作業療法士が行う「地域」での支援

重症心身障害児施設・島田療育センターのOTが携わる「地域」での支援は、多岐に渡る。保育園・幼稚園・小学校へ出向き保育士や教員らに助言を行う施設支援や、特別支援学校での外部専門員としての学校支援、重症心身障害児の方への訪問支援、保護者向けの講習会の開催、最近では児童館や学童保育への巡回相談などがある。今回は、その中から保護者向け講習会と児童館への巡回相談の活動をご紹介する。そして、「地域」での支援にあたる中で感じたOTへのニーズやこれから求められる役割などについても考えてみたい。

【話題提供②：伊藤 綾】発達領域の学習方法について～回復期リハビリテーション病院から児童発達支援施設へ転職した経験をもとに～

私は作業療法士として6年半、回復期リハビリテーション病院で勤務し、昨年11月に児童発達支援施設に入職した。発達領域について学ぶと専門範囲は非常に広く、作業療法士の専門的知識以外にも心理や教育など多くの領域を学ぶ必要がある。その中で今までの領域と比して、基本となる考え方や評価、支援方法など様々な面で違いを感じる。そこで、今回は私の経験から回復期リハビリテーション病院と児童発達支援施設での対象者や多職種との関係、制度などを比較し、私自身が抱える療育への難しさを共有し地域で働く若年層の作業療法士が行う自己研鑽の方法や指標を考察していきたい。

【話題提供③：飛田孝行】地域における支援者支援の実際

発達障害支援の現場において、障害が社会的障壁をさす社会モデルへ変化によって、専門機関に対してこれまで多かった「治してくれるもの」という期待から、地域での支援体制構築のための役割に変化してきている。今回の話題提供では、まず報告者がどのような場所で支援を行っているかを紹介し、次に地域施設へのコンサルテーションの実践報告を通して地域における支援者支援について考えていきたい。

認知症の人と家族の生活支援委員会　13:10〜14:10

『コロナ禍でも見つけた【認知症✖作業療法なこと】座談会』

群馬パース大学リハビリテーション学部作業療法学科　竹原　敦

医療法人社団プラタナス　桜新町アーバンクリニック　村島　久美子

台東区立台東病院　野本　潤矢

今回は，認知症の人と家族の生活支援委員会のメンバーがこのコロナ禍で見つけたり，考えたりした【認知症✖作業療法なこと】をいくつかご紹介し，皆で考える企画です．昨今のコロナ禍により認知症の人と家族に対する作業療法においても，臨床・臨地現場では大きな制限を受けていると思います．また，感染予防のために作業療法研究や地域活動など日々の業務以外の活動も行いづらかったり，他領域のOTや他職種との交流も減ってしまったりしたのではないでしょうか.

3人のプレゼンターが制度や地域，研究といった分野からの情報をご提供します．例えば，それは，コロナ禍においても認知症カフェを継続していること，地域で行われている話し合いを頻回に行い課題解決をしていること，感染症の状況における国内外の作業療法研究が報告されていることなどです．

当委員会の委員がコロナ禍においても実際に取り組んでいる，または見聞きしたり，文献上の内容などを紹介させていただくことによって，参加者の皆様の日々の実践におけるChance✖Challenge✖Changeのきっかけになれるような企画を予定しております！！

当日のタイムスケジュール

1．当委員会の３人のプレゼンターから話題提供（１テーマ10～15分ほど）

2．その後，参加者とプレゼンテーターで意見交換です.多くの皆さまのご参加により，議論が進むことを楽しみにしております．

就労支援委員会　14:20〜15:20

『就労支援に関わるOTの働き方

- 回復期病院・就労移行支援事業所の就労支援とは - 』

医療法人社団ＫＮＩ　北原リハビリテーション病院　谷本佳代子

ワークステーションJade中野・扇浩幸

近年、障害がある方たちへの就労支援に関して、作業療法士（以下、OT）の関わりに期待が集まっています。特に、就労支援を積極的に行っている「就労移行支援事業所」や「就労継続支援事業所」において、OTが福祉専門職員配置等加算における有資格者として認められるようになるなど、OTが就労支援へ関わる効果が社会にも認められるようになりました。また、就労支援に関わるOTが働く場所も、医療機関、就労移行支援事業所、就労継続支援事業所、ハローワーク、特例子会社など、少しずつ広がりをみせており、今後の更なる活躍が期待されています。

しかしながら、作業療法白書2015によると、回答があった全国のOTが所属する4,519施設のうち、職業関連領域に関与しているOTがいると回答した施設は27施設（0.6％）のみであり、1施設あたりで就労支援に携わるOTは平均1.9名という結果で就労支援に関わるOTの数は、まだまだ非常に少ない状況です。その為、就労支援に関わるOTは「実際にどんな仕事をしているのか？」「どんな働き方をしているのか？」と感じていらっしゃる方も多いのではないでしょうか？

そこで今回は、就労支援委員会のメンバーでもある医療機関・就労移行支援事業所で働くOTより、働く１日を紹介しながら、実際にどんな仕事をしているのか？ どんなことに課題に感じているのか？など、“就労支援に関わるOTの今”について話題提供をさせて頂きます。そして、就労支援に関わるOTが直面する「Change」・「Chance」・「Challenge」について共有し、就労支援に関わるおもしろさや、やりがい感などを、是非、皆さんに身近に感じて頂く時間にしたいと考えます。

【話題提供者 プロフィール】

谷本　佳代子

＜経歴＞2019年 帝京平成大学卒業後、医療法人社団KNI　北原リハビリテーション病院入職。現在、回復期病棟にて、就労支援担当者として入院患者に対する支援に従事する。

＜当日の発表＞

回復期病棟でどのような就労支援を、どのように行っているのか、また、急性期・外来との連携方法などについてご紹介いたします。

扇　浩幸

＜経歴＞2010年 首都大学東京（現東京都立大学）卒業後、医療法人社団成仁 成仁医院入職。2013年 株式会社東京リハビリテーションサービスへ転職し、東京リハビリ訪問看護ステーションEastに所属。その後、2016年同法人内で、指定特定相談支援事業所メノウ中野、ワークステーションJade中野 の立ち上げに関わり、所長として就労支援の第一線で活躍中。また、中野区自立支援協議会委員、三鷹市高次脳機能障害相談窓口、三鷹市障害支援区分審査委員なども務める。

＜当日の発表＞

就労移行支援事業所で働くＯＴは、どのような動きをしているのか、ＯＴのどのような視点が支援に活かされているか、また、求められているのかを中心にお話しいたします。

【ポスターセッション９】脳血管

P9-1　回復期脳卒中患者に対してe-ASUHSを用いた課題選定で麻痺側上肢への介入を行った事例

医療法人社団幸隆会 多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部　永吉 隆生

P9-2　失語症を有した対象者との作業療法の協働を目指し,ADOCを使用して得られた変化

社会医療法人 河北医療財団 河北リハビリテーション病院 セラピー部　　佐藤 百合

P9-3　家事動作訓練の積み重ねによりIADL自立に繋がった事例

社会医療法人 河北医療財団 河北リハビリテーション病院 セラピー部　後藤 あすみ

P9-4　麻痺側上肢の不使用がみられた症例の家事動作再開を目指した介入

社会医療法人 河北医療財団 河北リハビリテーション病院 セラピー部　木村 あゆみ

P9-5　アームサポート「MOMO」を使用し麻痺手の認識に変化を及ぼし
生活上での麻痺手の使用頻度が向上した一症例について

医療法人社団幸隆会 多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部　小川 美佳

【ポスターセッション10】高次脳

P10-1　小脳性認知情動症候群によりリハビリテーションに難渋した症例

初台リハビリテーション病院 回復期支援局　濱中 将

P10-2　視覚失認と失行を主とする多彩な高次脳機能障害を呈した症例

医療法人社団幸隆会 多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部　横山 雄一

P10-3　当院の自動車運転評価に基づき,日常生活評価に焦点を当て評価・介入した一事例と
今後の運転評価における課題

医療法人社団幸隆会 多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部　岸 真生

【ポスターセッション11】作業

P11-1　作業遂行文脈の共有からクライエントの価値観を導き出し，生活範囲の拡大に繋がった事例

きらめき訪問看護リハビリステーション　森田 裕太郎

P11-2　母親業再開のためにカナダ実践プロセス枠組みを利用し役割の可能化に至った事例

イムス板橋リハビリテーション病院　小林 万瑠実

P11-3　家での役割，家事を続けたい

医療法人社団幸隆会 多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部　戸谷 恵麻

P11-4　進行性核上性麻痺患者に対し，興味のある活動を導入したことでADL改善に繋がった一例

NTT東日本関東病院 リハビリテーション医療部　矢島 史菜

P11-5　訓練拒否を呈していたが，チーム連携にて再び着物を着られるようになった症例の報告

医療法人社団幸隆会 多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部　門間 葉子

P11-6　機能回復を望んだ症例を通じて~「指が完全に曲がるまでリハビリを続けたい」~

医療法人社団幸隆会 多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部　小池 なつみ

P11-7　家事動作に対して作業遂行分析を行い明確化された課題から
本人の希望する暮らしの獲得に繋がった症例

公益社団法人 地域医療振興協会 台東区立台東病院 医療技術部リハビリテーション室　河西 菜美

【ポスターセッション12】調査研究

P12-1　学生は教科書を参照できないか？ ～読解力と発達の視点から～

東京福祉専門学校 作業療法士科　小泉 雄一

P12-2　急性期病院リハビリテーション施行高齢患者のコロナ禍とコロナ禍以前を比べた動向

立川相互病院 リハビリテーション部　萱野 幸治

P12-3　通所リハビリテーションの利用を修了する支援に携わった作業療法士の経験知

医療法人社団 国立あおやぎ会 介護老人保健施設 国立あおやぎ苑 リハビリテーション課　長尾 宗典

P12-4　回復期リハビリテーション病棟における集団活動の対象と効果
- 文献データベースに基づく文献レビュー

医療法人社団幸隆会 多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部　西村 亞希子

P12-5　サンディング訓練の口腔機能訓練としての有効性について

医療法人社団幸隆会 多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部　松本 麻由子

P12-6　運動学における授業方法とその学習成果に関する文献研究

東京保健医療専門職大学　坂本 俊夫

【ポスターセッション13】活動報告

P13-1　当院の脳損傷者に対する自動車運転支援の取り組みについての報告

医療法人社団 永生会 永生クリニック リハビリテーション科　西村 彩

P13-2　当院の専門ショートケア てんかん学習プログラムの実践報告

–てんかん患者への精神科作業療法–

国立精神・神経医療研究センター 精神科リハビリテーション部　山元 直道

P13-3　当院における作業療法士を含む認知症ケアチームによるチームアプローチの介入事例

医療法人社団幸隆会 多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部　志澤 千恵

P13-4　摂食・嚥下支援チームにおける作業療法士の役割

医療法人社団幸隆会 多摩丘陵病院 リハビリテーション技術部　青木 佳子

第18回　東京都作業療法学会　実行委員会

大会長
　　三沢　幸史　　東京都作業療法士会 副会長
実行委員長
　　粟沢　広之　　東京都作業療法士会理事　大久野病院
事務局長
　　大貫　優斗　　多摩丘陵病院
実行委員
　　今泉　幸子　　桜ケ丘いきいき元気センター
　　赤羽　直子　　多摩丘陵病院
　　上野　繕広　　永生病院
　　平賀　美友　　永生病院
　　佐藤　雅晃　　南多摩病院
　　峯尾　舞　　北原国際病院
　　小林　舞美　　北原リハビリテーション病院
　　榛葉　智之　　大久野病院
　　米山　貴紘　　ふれあい町田ホスピタル
　　小松　正和　　天本病院
　　三沢　理恵　　デンマークイン若葉台／稲城台病院
　　吉田　瞳　　デンマークイン若葉台／稲城台病院
　　間宮　美春　　多摩丘陵病院
　　岸　真生　　多摩丘陵病院
　　河原　夏生　　多摩丘陵病院
　　松本　麻由子　　多摩丘陵病院
　　立川　利馬　　南多摩病院
　　山本　麻子　　東京都作業療法士会学術部
　　木下　輝　　東京都作業療法士会学術部
順不同

＜表紙デザイン＞
　　小嶋　麻美　　東京都立小平特別支援学校

第18回東京都作業療法学会　抄録集
2022年6月発行
「change・chance・challenge 3つのC ～作業療法のいま・これから～」
主催／一般社団法人　東京都作業療法士会